

令和5年度 学校評価結果公表シート

学校法人廣瀬学園
よさみ幼稚園

令和5年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び学校関係者評価を実施致しました。
教職員自己評価においては、教職員一同、園全体、学年、クラス、自己自身を改めて客観的に見つめ直すことにより、更なる自己研鑽を目指す非常によい機会となりました。
今年度の学校評価の結果を活かし、今後の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努め、子ども達の豊かな心を育てていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

清く ■かがやく瞳

正しく ■ゆたかな心

たくましく ■のびゆく身体

かがやく瞳にであいたい。ゆたかなところを、そだてたい。

教育方針

「自立心・自主性の育成」

- ・ 考える子
- ・ あそびの中でたのしく最後までやりぬく子

教育の特徴

1. 健康な心身をつくる。
2. 人とかかわる力を養う。(教師、子ども同士のかかわりを通して思いやりの心を育む)
3. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動や様々な事象に興味関心をもつ)
4. 豊かな感性、想像力、そして表現力を育てる。(めざましあそび、音楽リズム、造形活動、劇遊びなど自ら創意工夫する活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身につくように育てる。(社会・言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自ら考え行動できる子どもの育成と、教育とは共育との考えから、教師と子ども、子ども同士が共に育ちあうことを保育の重点目標とする。そのために、自園の特色を生かした教育を認識し、指導計画を振り返ることにより、日々の実践に挑み、教師自らが教育内容の改善に主体的に取り組む姿勢を身につける。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取組状況
1	教育方針・目標	園の教育目標や方針を共有することができるか。また、そのためにどのような取組がなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育目標や方針に基づき、教育要領の理解を深め、伸びやかに幼稚園教育の実践ができるように、職員間で話し合いを重ねている。(職員会議、学年会議、リーダー会議) また行事ごとの会議の際も、ぶれない目標・方針のもと、変化する社会や保護者の考えに適応し実践するよう取り組んでいる。 園生活が家庭や地域社会と連続性を持てるよう配慮する。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、日々の実践に活かし取り組んでいるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 週案は、学年毎に毎週会議を行い作成し、教職員間において共通理解を図っている。またファイリングを実践し、園全体として共通理解に取り組んでいる。 定期的にチーム保育を行い、担任が入れ替わることにより教師と子どもの学びや刺激になるようまた園全体で一人ひとりの子どもをみつめるよう共通理解に取り組んでいる。 保育内容・疑問・反省などは、毎日日誌に記録している。さらに直接園長に相談する場合も多く、その際は適宜園長からのアドバイスや会議を行い、日々の実践に即座に活かしている。 行事や学期ごとの反省会を記録し、次年度に活かしている。 社会状況応じたカリキュラムの見直しやクラスや園児の個々の状態を把握し、実践につなげている。 特別な支援が必要な園児の個別の指導計画にも取り組んでいる。 また療育施設や専門医など関係機関と連携をとる。

3	指導と関わり	園児個々の興味や関心、能力に応じて活動することにより、成長に応じた関わりがなされているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の自由遊びや生活の中の興味関心をもとにカリキュラムや保育活動に活かしている。 ・体育遊びや造形などの動的保育及び音楽や茶道などの静的保育など、静・動の保育を総合的に実施し、創造的な活動を実践している。 ・ネイティブ講師によることばの時間を設け、国際性の育成を実践している。 ・教員と園児と一緒に活動する中で、園児の主体的な活動を展開できるよう、個々の興味や関心に共感し、支え合い、学び合いを実践している。 ・園児を連続的に成長する1人の個人として捉え幼小中と継続して生きぬく力を月齢に応じた成長の中で育成し、小学校への継続教育を推進しスムーズな移行を実践している。特に年長児の教員については、小学校や大学の教員と共に保育や授業内容について研究し、円滑な接続について意識して取り組んでいる。
4	教育環境の構成	興味や能力に応じた活動及び異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎全体を教具として捉えて設計し、園庭の遊具、室内の自由遊びのための遊具を追加導入するなど、園児の興味や関心に応じて、安心して好きな遊びができるように環境作りを実践している。 ・異年齢の交流が自然にできるような部屋割りを実践している。遊びだけではなく、トイレや片付けなど年長園児が年少園児を自然とサポートできる環境の構成を行っている。 ・行事や保育活動の中でも異年齢が交流できるよう並ぶ場所や時間帯を考える。
5	研修・研究への取組	研修、研究への取組が十分に行われているか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽・絵画・造形・体育・茶道など講師を招き随時公開保育や園内研修に取り組んでいる。また、技能向上を目指し、職員間でピアノなど様々な取組みを実践している。 ・外部研修として、多岐にわたる分野の研修会に積極的に参加している。 ・幼稚園、小学校、大学の教員で構成されている研究会に所属し、保育や授業内容およ

				<p>び材料について研究し小学校への円滑な接続について意識して取り組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究会や研修会で講師として発表する、また自園から啓発し、意見交換や交流を積極的に行った。
6	安全管理体制の整備	安全管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内の安全点検を行い、修理などの対応も実施した。 避難訓練(火災と地震)年2回、交通安全指導を年1回を行い、園内避難訓練を随時実施し緊急時に備えている。 教職員は全員、年に1度救急救命講習を行い、全員が普通救命講習修了証を取得。AEDの設置。 毎年、不審者侵入者対応の実践的な園内防犯講習を行っている。 来園者の園内立入証の着用、防犯カメラ、防犯設備、非常通報装置を設置している。 地域の緊急情報にも速やかに対応し、保護者に手紙やメール配信等を通じて周知徹底させている。 様々な災害や事故に子ども自身が考え行動できる力を身に付けれるようしていきたい。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為の体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取組を行っているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 登園時降園時の視診や、必要に応じて検温を行い、園児の体調管理に努めている。 手洗い、消毒を実践し、各所に消毒液の配置などを行う。 各教室や共用部では毎日の清掃をはじめ、使用した場所やおもちゃを定期的に消毒を行い、衛生面に気を付ける。 各種ウイルス対策として各部屋に空気清浄機・消毒液に加えCO2測定器を設置し、換気にも十分気を付ける。 感染症や流行性の疾患に対して情報を早急に保護者に知らせるよう努める。 嘔吐・下痢時の対応はマニュアル化しており、嘔吐セットを園内だけでなく園外保育、バス乗務時にも常時利用できるようにしている。 給食など食品を扱う際には細心の注意を払い、帽子(バンダナ)・マスク・手袋の完全着用を実践している。 プール遊びの時もクラス交代ごとに塩素濃度を計測し、必要に応じて量を調節している。

8	地域の人々、 自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができるか。	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従来より社会との連携協働による教育の実践に取り組んでいる。 ・ 近隣小学校や中学校との交流を実施し、社会への関わりを促進している。 ・ 老人ホーム、デイサービス慰問は、子ども達の手作りの製作やメッセージなど、教師が施設を訪問し、交流をもっている。 ・ 警察の行事に参加することにより、安全意識の向上につなげている。 ・ 都会の中にもありながらも、園の中にある樹木や畑の苗を育て自然との関わりを持ち、土や水、実りなど肌で感じるよう取り組んでいる。落ち葉や木の実を造形や絵画に利用するなど、園児の成長において自然との関わりを重視している。 ・ 小鳥、メダカ、金魚、青虫、ザリガニ等の小動物を育てることで生命の大切さを知る。
---	-------------------	------------------------------	---

<評価の基準>

A	十分に達成されている	B	達成されている	C	取組はされているが十分ではない	D	取組が不十分である
---	------------	---	---------	---	-----------------	---	-----------

IV. 今後取組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	<p>人とかかわる力を育てる『協同して遊ぶ経験』など教育課程の工夫を実践できるよう、これまで以上により具体的な保育カリキュラムの構築に取り組んでいきたい。</p> <p>引き続き、考える力を養うなど園児の主体性を育んでいけるような保育実践を継続的に行い次の学年へ円滑な連携ができるよう情報の引き継ぎにも重点をおきたい。</p> <p>特別な支援を必要とする園児に対する個別の指導計画、教育支援計画もさらに充実させ、担任だけでなく園全体で、見守り、援助するよう取り組みたい。また関係機関との連携をはかり、専門的知識を深めていく。</p>
2	研修・研究への取組	<p>園外の研修については、教員が主体的に、自分の苦手とする分野や興味のある分野について多岐にわたる内容を受講し、教職員間で学びを共有している。しかし、園内研修において職員の保育活動の発表や意</p>

		<p>見交換の機会が必要である。このような発表の機会は、発表を聞いている教職員の学びを促すだけでなく、発表者自身の学びを深化させることが期待できるので、日常の業務において時間的制約はあるが是非とも取り組みたい。</p> <p>また、芸術面において鑑賞会を積極的に行い、芸術や文化に関する造詣もより深めていきたいと考える。</p>
3	安全管理体制の整備	<p>登降園時の安全確保のため、自転車や自動車のマナーやルール、またバスを待つ間のマナーを保護者に発信していきたい。また職員が安全の意識を持って場面に応じて対応していく力も必要である。</p> <p>避難訓練、交通安全講習、具体的な防犯訓練の実施、救命救急講習の受講は引き続き実践している。今年度より保護者および職員の緊急連絡カードを作成し活用すべく、大型地震や津波などにも備えた緊急時対策について地域と連携し、より緻密な計画を立てたい。 _</p>
4	保護者に対する情報発信	<p>保育目標や内容、子どもの活動については、園便りやクラス便りなどの手紙、メール配信システムそしてインターネットのホームページなどを活用し保護者に対して情報を発信している。しかし保育に対する思いが伝えきれていないのも現状である。行事や参観で表出されている部分だけでなく、それにいたるまでの取り組みや、活動のねらいを手紙や保護者の集まる時、講演会を設けるなど、これまで伝えきれていない部分について更に発信していく必要がある。</p>

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。

特に指摘すべき事項はなく、地域や行政とも連携し、諸事熱心に取り組まれている。

今後の保育活動や行事について再検討し進めていかれることを望む

(大学教授3名、地域役員および保護司会顧問3名、保護者4名 計10名委員会により)